

## 障害者支援センター運営委員会・第6回作業班議事録

■開催日：平成19年7月19日（木）1時30分～3時

■場所：ラポール3階 会議室2

■出席者：委員4名（欠席4名）

原田委員・三橋委員・佐藤委員・室津委員

### ■次第

#### 1 協議事項

障害者支援センターの今後の展開について  
～これまでの運営委員会議論のまとめ～

#### （武井課長）

開始時間となりましたので、第6回作業班を開催させていただきます。

#### （原田議長）

本日は谷口先生がご欠席ですので、私が進行を務めさせていただきます。本当なら谷口先生にも作業班で確認いただいて、次回の運営委員会に諮るという予定でしたので、大丈夫かなと思っっています。本日はすでに配付されている取りまとめ（案）をご確認いただいて、24日の運営委員会にお諮りして、概ねこれで決定をみるということですので、本日細かい訂正を含めていろいろご意見いただいて、来週の運営委員会に向けて進めていきたいと考えていますので、よろしく願います。事務局からご説明願います。

#### （小嶋次長）

まずお送りしたものの説明をさせていただきます。事前にお送りした趣旨と内容について、担当の田中よりご説明いたします。

#### （管理課：田中）

本日の資料としてもお配りしてございますが、取りまとめ（案）と、市域でのブロックのイメージ図とブロック内での関係図、そしてご確認いただいたうえでのご意見をいただく用紙を同封して郵送もしくは電子メールでお送りいたしました。6月下旬の運営委員会でのご意見を踏まえて、1ページの「はじめに」の全文と、4ページの「①助成事業と団体支援」を修正いたしましたので、その部分を囲いまして「※」で表現しご案内いたしました。

#### （小嶋次長）

3ページの「3 今後の展開についての提案」についても大きく修正をしております。

事前の意見集約について期日を設定させていただきました。

#### （管理課：田中）

事前にいただいたご意見をまとめて資料とすることも考えておりましたので、作業班開催日

の前日を期限とさせていただきますが、事前にいただいたご意見はございませんでした。

ご案内から提出期限までに十分なお時間を設定できず申し訳ありませんでした。

**(小嶋次長)**

厳しい日程のなかで皆様にご検討いただきご依頼をいたしまして、申し訳ありませんでした。事務局より運営委員会の議論を踏まえての加筆もしくは修正をおこないました。前回の運営委員会では、横田委員より、支援センターの今後の展開については、その基本線をきちんと押さえてやっていただきたい、ということと、ネットワークが全面に出すぎていて、そこに絡め取られていくような感覚を受ける内容であると、強く主張されましたので、今後のスタンスを改めて強調させていただきます。また、ネットワークづくりについては何のためにネットワークをつくっていくのか、ということを確認に記述することによって前回の運営委員会での皆様のご意見に対応したつもりであります。本日またご確認いただき、ご意見をいただければと思います。まず1ページ目の「はじめに」という部分を加筆させていただきました。これは、在援協の頃からの理念を今後も継承していくということです。特に当事者性は、今後も支援センターの中核的な理念として踏まえていきます、ということを変更して表明させていただきました。また、この当事者性という理念は支援センターだけがもっていれば良いというものではなく、福祉に取り組むあらゆる機関や人々が踏まえていなければならないものですので、そのことについても期待の表明ということで書かせていただきました。それから3ページ目ですが、先ほどもお話しさせていただいたとおり、ネットワークとは何のためのネットワークかということを押さえていながら、関係機関と協働して推進していく、ということを加筆いたしました。前回の運営委員会のなかで、八島委員や長谷山委員よりご意見がありましたが、ご自分が経験をなさって、その積み上げのなかで色んな力を得てきた経緯があり、そこが極めて重要であるということでしたので、「生きる力」という言葉で表現をさせていただきました。3ページの「3 今後の展開についての提案」の3段落目にある『仲間と共に様々な活動に携わることで、経験を積み、生きる力を育む支援を行なってきた』という部分です。5段落目には『今後支援センターは障害児・者の地域生活をさらに推進していくための対策を講じるべく』ネットワークを構築していくということです。どのようにというところですが、『障害者と家族を中心としながら、市域、地域における各種関係機関との協働を推進する「横浜市の障害児・者対策におけるネットワークの要」となることを明確に掲げる』と記述しました。この部分でネットワークづくりの目的と作り方を押さえていただきました。それから4ページ目ですが、団体のなかでの連合化の議論と、支援センターの地域展開におけるブロック化の読み分けがなかなかできない、ということや、連合化に関して運営委員会では十分されていなかった、というご意見がございましたので、「各連絡会のなかで連合化が語られている」という表現にさせていただきました。具体的には4段落目に『現在、作業所、機能強化型活動ホーム、グループホームの今後について、各連絡会では』という表現にしております。これまでは『各連絡会と障害者支援センター運営委員会では』と併記しておりましたが、限定的に標記しております。最後の

段落には『今後、各連絡会が従来の理念・活動の仕方を継承、発展させるために連合化を図ろうとするなら、支援センターにはそれを支援し、その基盤強化を目指す取り組みが求められる』を記述しています。皆様のご要望に拠って立っていきますということを改めて標記いたしました。また「一定程度」という表現を「ある程度」という表現に変更させていただきました。

作業所も機能強化活動ホームもグループホームも連合化については提案されておりますが、その規模については各会のなかで、様相が異なって提案されておまして、それぞれの提案にそった規模ということで「ある程度の規模」という表現にさせていただきました。文章上で修正した箇所は以上です。そして、図があるとわかりやすいということでしたので、図を作成いたしました。支援センターの地域展開、ブロックのイメージを表現したものです。まず市域の図ですが、トップダウンというようなものではなく、対応・協働を基本としたイメージ図です。それからあるブロックを取り上げて詳細に表現したものが2枚目の図です。これは3区をイメージし、それは地域療育センター、特別支援学校の領域で見ていくというものです。障害者と家族が地域に暮っていて、さまざまな社会資源があつて、支援センターはこのブロックで相談やコーディネートをおこなうというものです。また各区には自立支援協議会が組織されているようですので表現しておりますが、各区によって団体間の連結の実態がさまざまであるようですので、図のなかの社会資源を実線で繋ぐという表現はせずに、包括的な概念として図に表現しております。支援センターの地域コーディネーターは3区のなかのどこかの機能強化型活動ホームに足場をおいて、ブロック内を回っていくというイメージです。

#### (原田議長)

確認を含めてご意見がありましたらお願いいたします。何点かお話しさせていただきます。前回の運営委員会を欠席いたしましたので、すでにご意見が出ているかもしれませんが、事務局から運営委員会での議論の概略をお聞きして、横田委員のご意見等を踏まえながら、従来積み上げてきたものを大事にしながらかつていくときに、理念ではなくて、具体的な文言のなかにどのように落とし込んでいくかということを見ると、例えば4ページの「③啓発・研修事業」のなかで、当事者や家族の学習をどのようにおこなっていくかが必要になってきているのだと思います。今回の取りまとめには、サービス提供側の論理が強くなってきているので、在援協の頃から積み上げてきた当事者性を大事にするのであれば、当事者や家族が学ぶ機会や場をつくる、それは研修という言葉ではなくて、お互いに学びあうということだと思います。単なる啓発・研修だけではなく、学ぶ機会をどう作っていくかということです。それから、もう1つはサービスの支援ではなく、活動の支援について、どこで表現するかということです。当事者活動ですとか、家族会の活動支援について従来担っている役割としてどこかで表現したほうが良いのではないのでしょうか。また4ページに記載しているあゆみ荘の専門性について、今のままの2行で良いのでしょうか。書き込むのであれば、本当にあゆみ荘が必要であるということを明記するか、それとも今回の取りまとめでは、それが本論ではないので削っておくのか、考え方があると思います。あゆみ荘についての議論を作業班では本格的におこなっていか

たので、一度議論をしておくべきだと思います。さらに6ページですが、「6 地域の取り組みに期待する機能・事業」のなかで、これまで研修などで取り上げてきた防災の問題、区や地域の単位での災害時の対応について、また私も最近になって知ったのですが、「減災」という取り組みについて、小さい地域のなかでより丁寧に繋がりづくりをしていく、ということが強調されても良いと思います。また最後の段落の『なお、これらの取り組みを地域で本格的に展開するには、精神障害者への支援について、全市、地域における検討・調整が必要である』と簡単にありますが、精神障害者への対応については非常に重要な課題だと思います。「6 地域の取り組みに期待する機能・事業」として掲げるだけで良いのか、もっと前段で明記しておくべきなのか、「7 まとめ」でも記述されていますが、今のままではちょっと弱いかな、という印象もあります。ただ、あまり全面的に記述しても、実際に今の支援センターで出来るのかということもありますので、書き方と位置づけを確認しておいたほうが良いと思います。このままでは「地域」での取り組みという印象になってしまいます。

**(小嶋次長)**

障害者や家族の活動支援についてですが、4ページ「①助成事業と団体支援」などでの記述のように「団体支援」という言葉に含んで表現してきています。もう少しきちんと明記すべきでしょうか。どのように表現すべきでしょうか。ある意味で自主的な活動がすべての原点でしたが、一部制度化されたりした経緯があります。

**(原田議長)**

横田委員をはじめ皆さんが心配されていることは、在援協の時に使っていた「団体」と社協が使う「団体」では少し意味合いが違うのだと思います。社協が使う「団体」とは、一般的にサービスの提供団体を指します。サービス提供団体をどう支援するのか、ということと当事者団体をどう支援するのか、横浜の場合は二分するわけではなく一緒にやってきたという特徴がある訳ですが、どちらかというサービス提供側の理屈で徐々に仕組みが作られていくのではないかという危惧があるとするならば、支援センターはサービス提供団体への支援だけではなく、当事者や家族の学びや活動の支援もきちんと担っていくということを明確にしておくべきだと思います。それは意味合いとして含まれているという程度ではなく、きちんと言葉として謳っておいたほうが、誤解が無くて良いのかなと思います。

**(小嶋次長)**

室津委員もこれまでの間、作業所やグループホームは単にサービスを提供するだけの団体ではなくて、障害者や家族と一緒に育っていく団体、育てられる団体だと、ずっとおっしゃっていらっしゃいます。

**(原田議長)**

一方では、ますます契約という言葉が強くなってきて、思いとしては一緒、対等といいながら、契約する主体が放っておけば二分してしまいます。

**(小嶋次長)**

4ページの「①助成事業と団体支援」のなかで、『ここで言う団体とは』などとすると分かりにくくなってしまいますので、明確に「当事者と家族が自主的に活動していくための支援」とか「学んできたことを大事にしていく」という表現を加筆していくということではいかがでしょうか。それとも1つ項目立てしたほうがよろしいでしょうか。

**(原田議長)**

活動を支援するというのを、理念ではなく事業として位置づけて、団体に任せるということではなく、支援センターとして意図的に学ぶ場作りをおこなっていくことのほうが良いと思います。研修というと、ある講師がある1つのものを伝達していく、という意味合いが強いと思いますが、在援協で大事にしてきたのはお互いに学びあうとか、1つの問題について一緒に考えあう、ということだと思います。ただどういう事業とするかという課題はあります。

**(小嶋次長)**

もう1つ項目を立てることは良いと思いますが、どのようなタイトルを付けるべきでしょうか。

**(三橋委員)**

研修よりも適切な言葉があると良いのですが、「学び」ということだと思います。どんどん成長していく中で親の学びというのは大変重要なことだと思います。意外といろいろな情報から遠くなっていくこともあります。本当であれば3区程度で構築するブロックごとに実施していくほうが集まりやすいので、将来的な方向性として考えていても良いと思います。

**(原田議長)**

確かにラポールで研修をおこなって皆を集まるという発想ではなくて、普段の活動ホームや作業所の活動の場、訓練会はまさにそういった場であると思いますが、そういう普段の活動のなかで当事者や家族の学びが大事であるということが意識されていて、そこで当事者性や生きる力のエンパワメントが出来てくるのだと思います。サービス利用者としての学びではなくてもっと生活者として学びがお互いにできるようなことを意識的にやっていくということでしょう。そう考えると「②助成事業と団体支援」のなかに含めていても良いのかなという思いもありますが、バランス的には1つの項目として立てるほうが良いと思います。

**(小嶋次長)**

八島委員も、ご自分たちでグループホームの運営に関わりながら、わが子が自立していくこととか、地域で暮していくことの意味を学びあったということ、前回の運営委員会のなかで発言されています。まさにそういうことだと思います。

**(原田議長)**

そういったことを意識することが他と違う部分であるし、支援センターの支援の大事な核となる位置づけになると思います。

**(三橋委員)**

支援センターの出向く支援のなかにあるものかなと思います。とても必要なことだと思います。

**(原田議長)**

項目を1つ立てることを確認いただければ、提案した立場ですので、私が項目について考えさせていただきます。

**(菊地室長)**

3ページの「3 今後の展開についての提案」に、運営委員会での八島委員などのご意見を踏まえて、4段目『支援センターは障害者や家族が「安心」感を得ながら、仲間と共に様々な活動に携わることで経験を積み、生きる力を育む支援を行なってきた』とし、『これらの支援は極めて重要な意味をもち、支援センターはその理念である当事者性、運動性、開拓性と対等、協働を基本とし、従来にもましてその活動を強化する必要がある』として謳っています。それを具体的な事業として関連付けていただけると、全体にかかっているのと分かりやすくなると思いますので、よろしくをお願いします。

**(原田議長)**

すでに「3 今後の展開についての提案」のなかで方向性が明記されているので、「4 機能・事業」として具体的に反映されるとよい訳ですね。

**(小嶋次長)**

防災、減災に向けての取り組みについては明記させていただきますが、7ページの「別紙3」には「1 地域におけるセイフティネットワークの構築」のなかを含めてしまっていますので、1つ項目を立てるということでよろしいでしょうか。また精神障害者への取り組みについては、先行き不透明な部分がありまして、まとめのなかで記述した程度しか触れることが出来ませんでした。なぜ「6 地域の取り組みに期待する機能・事業」のなかで触れているかといいますと、全市レベルでは一定の整理がされていますが、地域では3障害混在のなかで活動しているので支援センターの発想だけでは、地域の実情を考えて全市レベルでも考えてほしい、という要望がありましたので、6ページの最後の2行に反映させています。このことは、どちらかというと区のレベルで活動されている方々が実感されていることだと思います。

**(原田議長)**

あえて「5 支援センターが地域で対応すべき機能・事業」のなかに表示せずに、「6」で表現しているのは、支援センターの枠で議論することは難しいということでしょうか。

**(小嶋次長)**

今後、支援センターがどのように展開していくかという議論をしていくのですが、現実的に区では3障害の団体が入り組みながら展開しています。支援センターが協働する前提なのですが、具体例でご説明すると、例えば区社協にこのような事業が提案されていった時に、区のレベルの課題を踏まえておいてほしいという意見があるだろうと、そしてこのことが全市レベル

の課題として持ち上がっていくというように考えています。念のために表現しているものです。

**(原田議長)**

「6」で表現しているのは問題ないのですが、「6」だけでなく「5」で表現しておかなくて良いのでしょうか。支援センターの地域での展開のなかで表現しても違和感は無いと思います。

**(小嶋次長)**

やはり全市的な取り組みにも通じてきますので、「7 まとめ」のなかで整理するほうが良いのでしょうか。

**(菊地室長)**

区社協側が、精神障害についても支援しているので、支援センターの今後の展開についての取りまとめの中から排除しないでほしい、という問題提起がありましたので、それを踏まえて表現していきたいという気持ちがあります。今の時点で検討するまでもなく地域で展開する場合は精神障害者を排除するということではないという注意書きとして入れてあります。

**(小嶋次長)**

「別紙3」で「地域の取り組みに期待する機能・事業」について列挙してありますが、知的・身障については支援センターが協働しながらイメージできるとしても、精神障害者についてすぐに対応できない場合もあるので慎重な表現にしてほしい、という意見もありました。

**(原田議長)**

分かりました。

**(小嶋次長)**

あゆみ荘についてはいかがでしょうか。

**(室津委員)**

現実的な動きとして、例えば「あゆみ荘を切り離したい」ということはあるのでしょうか。

**(小嶋次長)**

そういったことは聞いておりませんが、市社協のなかでは極めて特殊な形態だと思います。

**(菊地室長)**

職員の就業規程でも夜勤があるのはあゆみ荘だけですし、社協では施設は施設の担当部署が取りまとめているのですが、あゆみ荘は支援センターの所管となっていますので、社協全体としては少し異質だと思います。

**(原田議長)**

私が社協職員であれば、研修機能という観点であればウィリングとあゆみ荘を合わせて考えるという発想になると思います。でも支援センターとして「あゆみ荘は障害者研修に特化したものとして必要である」ということを謳っていなければいけないのであれば専門性について加筆しておく必要があるのではないのでしょうか。時間もありませんので、どのように表現すべきでしょうか。

**(武井課長)**

あゆみ荘には、緊急時の土日や夜間の連絡先としての役割もありますので、そういった部分も明記しておいたほうが良いでしょうか。

**(原田議長)**

そういった役割や必要性があるのであれば記述しておくべきだと思います。このままだと「障害者と家族の保養、研修、レクリエーションの場として」というだけです。付加価値があり、重要な機能であるということを明記すべきだと思います。

**(菊地室長)**

支援センターと繋がっていることによって、どういう機能がアップしているかということでしょうか。

**(原田議長)**

指定管理者制度で、他の法人などに渡してしまうということもあるのでしょうか。

**(小嶋次長)**

すでに指定管理者制度の対象となっています。3年後の見直しになります。

**(原田議長)**

今回議論されている支援センターの展開についての取りまとめは、これからまた1年かけて検討されていくのでしょうか。今年の夏に中間取りまとめが完成して、具体的なイメージの検討ができて20年8月の最終取りまとめになるのでしょうか。

**(小嶋次長)**

支援センターの地域展開は、ずっと運営委員会や作業班でも議論がありましたので、それはそれで展開していきますが、一方、団体の連合化については時を同じくして提案させてきましたので、もしかすると時期的に重なる可能性もあります。なんといっても相手がいることですので、支援センターがどんどん引っ張っていくものでもありません。

**(原田議長)**

今後のスケジュールを考えると、そもそもこの取りまとめを急いでいたのは、次年度の予算要求に間に合うようにすることだったと思います。ある一部分は次年度の予算編成に間に合うかも知れないという期待をもっていると思いますので、すべてが21年度実施ということではないということでしょうか。

**(小嶋次長)**

まず支援センターとしては、コーディネーターの地域展開を市に認めていただいて、個々の強化をお願いしていくという方針は変わりません。一方、団体の連合化についてはそれぞれで運動されていくそうです。

**(原田議長)**

段階があるということでしょうか。今年度に関してはコーディネーターの配置が第一優先ということでしょうか。ブロック化については各団体や関係団体との調整をしながら具体的なイメ

ージを作っていくということでしょうか。そのスケジュールはどのようになるのでしょうか。

**(小嶋次長)**

地域展開は21年度4月からということです。

**(半田課長)**

予算要求との関係でいうとコーディネーターの地域展開は20年4月からです。他のものは21年4月に予算化していただきたいということです。団体からの提案については、早いものは20年度からでしょうし、それ以降になるかもしれないという感じで動いています。

**(原田議長)**

24日の運営委員会の時に、具体的なスケジュールを提示していただいたほうが良いと思います。今回議論している中間取りまとめは、来年の最終取りまとめまで案のままで引っ張るのでしょうか。

**(小嶋次長)**

ただ、団体の連合化の展開について不確定であることと、精神障害団体との連携について今後話し合わなければならない点だと思います。そういった部分を検討し、来年の最終取りまとめを作成できればと考えています。

**(原田議長)**

考え方ですが、今回の取りまとめは運営委員会で承認いただいたら1つの報告書として完成させて、それに基づいて実施した段階の検討をしていくべきだと思います。そうでないと今回の取りまとめがずっと1年以上、案のままでいることになってしまいます。

**(小嶋次長)**

この基本線は1年経っても変わるものではないし、変えてはいけないものですので、取り扱いをどうしておくべきか考えなければならないと思います。

**(原田議長)**

できれば24日までに事務局のなかで議論いただいて、センター長や谷口委員長のお考えも反映させた上で、この考え方をまとめにしてしまって、それを基に具体的な展開をどうするか考えていくべきだと思います。課題を検討し、実施に向けての準備に移していったほうがよいと思います。

**(小嶋次長)**

支援センターも市社協も人事異動がありますので、これはきちんと押さえておかないといけないのかなと思っています。

**(室対委員)**

完成させておいて、横浜市や社協のなかで方向性についての合意を作ることのほうが先の見通しを立てやすいと思います。

**(小嶋次長)**

基本設計と実施設計という二通りにさせていただきたいと思います。

**(原田議長)**

計画を立てる時に、基本計画と実施計画を分けて作りますので、今回の取りまとめを基本計画として、運営委員会で了解をいただいて、たくさんある課題について基本計画に基づいて議論していくという段階に移したほうが良いと思います。

**(武井課長)**

今回の取りまとめを基本計画とするのであれば、「7 まとめ」の最後の文章も、「最終的な報告としたい」など修正しなければならないと思います。

**(原田議長)**

それでは本日はよろしいでしょうか。24日の運営委員会もよろしくお願いします。